

1 日目

3 年こそあど言葉

学習した日
/ ()

1 次の文にあてはまる言葉を、あとのの中から
えらんで、記号を書きましょう。

- ずっと昔、() は、うみでした。
() 川で、大きな魚をつりました。
() が、有名な花です。

ア ここ イ これ ウ この

2 次の文に当てはまる言葉を、あとのの中から
えらんで、記号を書きましょう。

- () 道を行くと、海に出ますか。
() から、ゆかのそうじを始めたら
よいですか。
名前がないので、() があなたのノート
なのか、分かりません。

ア どれ イ どこ ウ どの

3 次の文にあてはまる言葉を、あとのの中から
えらんで記号を書きましょう。

- () 本は、きのう買ったものです。
() へ行くのに、バスで十分かかります。
() がほしかった本です。

ア それ イ そこ ウ その



太	寒	暑	鉄	出	追	乗	列	送	感
陽	い	い	橋	血	う	る	車	る	想
太	寒	暑	鉄	出	追	乗	列	送	感
陽	い	い	橋	血	う	る	車	る	想

読み
なぞり書き
一回目練習
二回目練習

2 日目

3 年こそあど言葉

学習した日 / ()

1 ——— がさしている言葉を書きましょう。

音楽室の前を通った。そこから、歌が聞こえた。

水そうで魚が泳いでいる。これは、ぼくがつつてきたものだ。

ろうかでえんぴつをひろった。これは、だれのものだろう。

さやま市駅についた。そこからバスに乗った。

2 () にあてはまる言葉を
らえらんで、記号で書きましよう。
か

() が、あなたのくつですか。

() で、この本を買ったのですか。

() 花がすぎですか。

() まで行ったら休むのですか。

() へ行くにも、車がべんりです。

ア どこ イ どれ ウ どの

3 ——— がさしている言葉をえらんで、
つけましよう。

横はまの港には、船がならんでいる。この中には、魚をとるための船やお客さんに乗せるための船がある。

ア 横はま イ 港 ウ 船



打	君	来	美	荷	九	動	第	生	軽
つ	主	客	化	物	州	作	一	命	い
打	君	来	美	荷	九	動	第	生	軽
つ	主	客	化	物	州	作	一	命	い

読み
なぞり書き
一回目練習
二回目練習

3 日目

3 年国語じてん

学習した日
/ ()

1 国語じてんで、前に出ている言葉の方に、○をつけましょう。

- () あさ
- () あめ
- () つめ
- () あさがお
- () がっこう
- () ひる
- () あさ
- () あさひ
- () かっこう

2 国語じてんに出ている順番ついでを1から

3 の数で書きましょう。

- () すな
- () いし
- () いわ
- () かめ
- () かわ
- () かい
- () ねんご
- () ねこやなぎ
- () ね
- () しゃしん
- () しゃかい
- () しょうかい



整	筆	田	日	消	育	植	大	取	中
理	者	畑	光	化	つ	物	豆	る	秋
整	筆	田	日	消	育	植	大	取	中
理	者	畑	光	化	つ	物	豆	る	秋

読み
なぞり書き
一回目練習
二回目練習

1 _____の部分为国語じてんに出ている形
になおしましょう。

(例) 手紙を書いた。(書く)

ジュースをのんだ。()

道にまよってしまった。()

荷物がおもくて持てない。()

海はとても遠かった。()

その日の朝は、すずしかった。()

2 () () のことを国語じてんで調べ、

□の文と同じいみで使われている文
に○をつけましょう。

(たずねる)

交番で駅の場所をたずねる。

() () 友達の家をたずねる。

() () けっせきの理由を電話でたずねる。



	読み	なぞり書き	一回目練習	二回目練習
昭	昭	昭		
和	和	和		
学	学	学		
級	級	級		
委	委	委		
員	員	員		
旅	旅	旅		
行	行	行		
海	海	海		
外	外	外		
二	二	二		
階	階	階		
鼻	鼻	鼻		
歌	歌	歌		
歯	歯	歯		
科	科	科		
白	白	白		
玉	玉	玉		
牛	牛	牛		
乳	乳	乳		

1 の漢字を次の部分を持つ漢字を
三つずつ書きましよう。

(く)がまえ【三つ】	(まだれ)【三つ】	(しん)じょう【三つ】	(たけ)かんむり【三つ】	(う)かんむり【三つ】	(く)さかんむり【三つ】
------------	-----------	-------------	--------------	-------------	--------------



一	重	飲	薬	医	病	転	消	作	駅	読み
度	い	む	局	者	気	ぶ	息	業	前	
一	重	飲	薬	医	病	転	消	作	駅	なぞり書き
度	い	む	局	者	気	ぶ	息	業	前	
										一回目練習
										二回目練習

6 日目

3 年漢字の組み立て

学習した日 / ()

1 【 】に次の部首の漢字（と送

りかな）を書きましよう。

（くさかんむり）

くるしい

おちゃ

（うかんむり）

さむい

まもる

さだめる

（たけかんむり）

ふえ

こたえ

ひとしい

（しんにょう）

おくる

とおい

ちかい

みち



列	電	放	汽	手	期	苦	幸	大	起
島	波	つ	笛	帳	待	い	福	根	立
列	電	放	汽	手	期	苦	幸	大	起
島	波	つ	笛	帳	待	い	福	根	立

読み
なぞり書き
一回目練習
二回目練習

7 日目

3 年つなぐ言葉

学習した日 / ()

1 () () に合う言葉を から
えらんで、二つの文をつなぎま
しょう。

やくそくの時こくになった。
() 友達はまだ来ない。

ちゅう車場まで歩いて一時間か
かった。() そのあと三十
分歩いた。

かぜをひいてしまった。()
学校を休むことにした。

図書館まで歩いていきますか。
() バスで行きますか。

雨がふりそうだ。() () かさ
をもって行きなさい。

それとも・だから・でも・さらに



受	起	平	二	申	悪	電	守	拾	待	読み
け	き	ら	倍	す	い	池	る	う	つ	
る	る	ら	倍	す	い	池	る	う	つ	一回目練習
受	起									
け	き									
る	る									

8 日目

3 年主語・^{じゆつ}述語・^{しゅうしょく}修飾語

学習した日 / ()

1 次じゆの文の主語、じゆ述語、じゆ修飾語の

部分ぶぶんにそれぞれ線を引き、主語の線の

横よこには (ア)、じゆ述語の横には (イ)、しゆ修

飾語しやくごの横には (ウ) を書きましよう。

(例) 遠とほくに 富ふ士山しやまが 見みえる。
ウ ア イ

ぼくは、毎日 新聞を 読む。

消しゴムが つくえから 落ちた。

電車に 乗るのが 楽しみです。

弟は 毎日 おふろを そろじする。

投	悲	負	電	勉	放	選	野	研	細
げ	し	け	波	強	送	手	球	究	か
る	い	る	電	勉	放	選	野	研	細
投	悲	負	波	強	送	手	球	究	か
げ	し	け							
る	い	る							

読み
なぞり書き
一回目練習
二回目練習

9 日目

3 年 ことわざ

学習した日
/ ()

1次のことわざの意味としてふさわしいものをあとのアからオの中からえらび、() () の中に書きましよう。

- 急がば回れ ()
- 石の上にも三年 ()
- 住めば都 ()
- 負けるが勝ち ()
- 善は急げ ()

ア 急ぐときには、遠くて安全な道に行く方が、危険な近道をするよりも結局は早く目的地に着くというたとえ。

イ 相手に勝ちをゆずる方が、最後は自分の得になることのたとえ。

ウ がまん強く努力すれば、必ず成功するということたとえ。

エ よいと思ったことは、ためらわないですぐに行ったほうがいいということたとえ。

オ 住みなれば、どんな場所であってもそれなりにすみよくなるということたとえ。

⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
宮	日	千	上	勝	羊	車	運	石	走
大	記	代	等	負	毛	庫	転	炭	者
工	帳	紙	上	勝	羊	庫	運	石	走
宮	日	千	等	負	毛	庫	転	炭	者
大	記	代							
工	帳	紙							

読み
なぞり書き
一回目練習
二回目練習

10 日目

3 年ことわざ

学習した日
/ ()

1次のことわざの意味としてふさわしいものをあとのアからオの中からえらび、()の中に書きましよう。

聞くは一時のはじ 聞かぬは一生のはじ ()

仏の顔も三度まで ()

石橋をたたいてわたる ()

ねこに小ばん ()

飛とんで火にいる夏の虫 ()

アどんなにおとなしい人でも、何度もひどいことをされると、最後にはおこるといふことのとえ。

イ自分からあぶないことにとびこんでいくことのとえ。

ウどんなに値打ちのあるものでも、その分からないう者には意味がないことのとえ。

エとても用心深いことのとえ。

オ知らないことを聞くのはその時ははずかしいが、知らないままできると、一生はずかしい思いをする事のとえ。



薬箱	坂道	祭り	予想	役所	苦勞	海岸	速度	口笛	寺院	読み
薬箱	坂道	祭り	予想	役所	苦勞	海岸	速度	口笛	寺院	
										一回目練習
										二回目練習